

KOBE YMCA NEWS



神戸青年

No.651

2017.5・6

May・June

発行所 日本YMCA同盟 東京都新宿区本塩町7
THE YMCA神戸版 発行人/井上 真二 編集人/田村 光
神戸YMCA 〒650-0001 神戸市中央区加納町2-7-11
TEL. 078-241-7201 FAX. 078-241-7479
URL http://www.kobeymca.org 印刷/わかばやし印刷

神戸YMCA
年間聖句

「あなたの未来には希望がある」
(エレミヤ書31章17節)

新三宮会館 チャペルには、 ステンドグラスが設置されました

ステンドグラス「エマオからの道」<ガラス作家 林 知子>

「道で話しておられるとき、また聖書を説明して下さったとき、
わたしたちの心は燃えていたではないか」 (ルカ 24:32)



エルサレムからエマオへの道のりは、弟子たちにとって絶望の道だった。

そしてこれは絶望が希望に変わる物語である。弟子たちは、自分たちを救ってくれるメシアは決して死なないと思っていた。神の国をもたらす方であったし、自分たちはそのメシアであるイエスに「選ばれた」者たちであるはずだった。イエスが生きている間に神の国は出来、自分は他の人たちよりも上の位につけるとすら思っていた。なのに、イエスは本当にただの人として十字架の上でいとも簡単に死んでしまった。

これまで何度もイエス自身から復活についてきいてはいたものの、イエスの遺体がなくなった今、彼らには目の前の男が復活したイエスだとはわからない。

その後、弟子達は、イエスのそれまでの言葉による説明ではなく、賛美の祈りとパンを裂くという「行為」によって気付かされ、目が開かれる。最後の晩餐は、理屈ではなく体験的な「感覚として」細胞が覚えていたのである。

彼らは、イエスが生きている間、話を一番近くで聞き、理解し分かったつもりでいた。しかし本当の意味においては分かっていた。分かっていたが、でも心は確かにその一部を捉えて感じていたのだ。心が捉えるキラキラするものは、無意識のうちに時と共に蓄積される。その輝きは、いつか時が満ちた時、何かをきっかけに全てに意味が与えられ、腑に落ちる時が来る。弟子達はイエスの十字架を体験し、エマオまでの道を絶望しながら歩いた。

しかし今、引き返すエマオ「からの」道のりは、キラキラと輝いている。

そこにイエスはいないが、それこそがまさに弟子たちの中で起こった、イエスの復活であった。

林 知子

兵庫県生まれ。関西学院大学神学部博士前期課程修了。大学在学中に三浦啓子氏に師事。分厚いガラスをハンマーで砕き固めるステンドグラス製作を始める。代表作「ヤコブの梯子」「木漏れ日」(大阪暁明館病院)、「律」及び、「動物シリーズ」(東武鉄道曳舟駅ビル)、「XII+I」(関西学院大学神学部チャペル)など、その他多数作品。

新三宮会館 竣工記念式典



多くの皆様の祈りとお支えにより、2月28日にすべての工事を予定通りに終え、神戸YMCA三宮会館が竣工しました。3月19日(日)には、ここまでお支えくださった工事関係者の方々と共に神戸YMCA三宮会館完成記念礼拝をおこないました。

神戸教会 菅根牧師から『地の塩、世の光として』という説教タイトルで既に約束された者として、この会館を通して、YMCA運動を更に推進していくようにと力強いメッセージをいただきました。

会員の方々と共に、地域に愛

され、YMCA運動の発信拠点として、また協働事業者である生活科学運営さんと共にコミュニティのつながりの場として用いられるようにと、この建物をYMCAの会館として『珠を磨いていく』活動がいよいよ4月からスタートします。

5月8日には131周年創立記念日礼拝、5月13日にはお披露目の三宮会館オープンハウスDAYをおこないます。ぜひ、皆様、新しくなった三宮会館に足をお運びください。



2017年 定期総会

- 日時: 2017年6月30日(金) 18:30~
- 場所: 神戸YMCA三宮会館チャペル
- 議題: 会則等改定について
- 報告・表彰: 1. 2016年度事業活動概況・2017年度事業方針
2. 監事報告
3. ボランティア奨励賞



専門学校 入学式が行われました

4月5日(水)新三宮会館で学ぶ新入生を迎えて、専門学校の入学式が行われました。ホテル学科33名、日本語学科56名の新入生を迎え、期待と不安を抱えながら新学期が始まりました。

また、仮校舎で学んできた在校生たちにとっても、待ちに待った新校舎への移転です。よりよい学習環境で、充実した学校生活を送れることを期待しています。



【室内プール100年】



2017年度は、YMCAが室内プールを作った100年です。1917年(大正6年)、日本で初めての室内温水プールが東京YMCA初代体育館に建設されました。このプールでは、「水府流」や「神伝流」などの古式泳法に代わって、クロールなどの近代泳法が紹介されました。中でもバックストロークが日本で初めて披露されたのも、この東京YMCAのプールでした。1932年に行われたロサンゼルスオリンピック日本代表の水泳選手の強化合宿もこのプールで行われました。戦後は、プールで泳ぐ会員が増え、会員有志による「朗泳会」というグループが発足し、YMCAのアクアティック事業の補佐なども行い、YMCA運動の担い手を創造する会員醸成の場となっていました。1970年以降は、多様なアクアティックプログラムの開発、全国各地でYMCAプールが拡がっていきました。YMCAは室内プールを創造し、水泳指導を普及させ、指導者を養成してきました。また、可動床式プール、ダイビングプールの新設、水中スポーツの導入、高齢者を対象とした水中運動など、多様な人々に対して多様なプログラムを展開してきました。自らの「いのち」を自ら守るウォーターセイフティの概念は今も脈々と受け継がれ、2016年度は全国で11,313名の人々がYMCA水上安全プログラム(着衣泳など)に参加しました。先駆的に開発されてきたアクアティックプログラムも一般に定着し近年は円滑なプログラム運営がなされています。単にプログラムを行うだけでなく、仲間や指導者との関係作り、できたことに対する喜びと爽快感、生活習慣としての運動、さらに他者の楽しみや快さを支え、共にある奉仕心がけながらYMCAのアクアティックプログラムは展開されてきました。これからの人も積極的に生きていくためのアクアティックプログラムに取り組み、会員の皆さんと共に次の100年にむけて、1年の歩みを始めていきます。

YMCAちとせ保育ルーム



今年度4年目を迎えたYMCAちとせ保育ルームでは、進級児6名、新入園児6名、計12名(内1歳児4名、2歳児8名)での保育がスタートしました。4月1日、保護者に連れられてご機嫌な様子で登園した子どもたちも、週が明け、1週間の慣らし保育が始まると、変わらずご機嫌な子、保護者と離れたことに泣いている子と姿はそれぞれですが、ここで頼もしいのが進級2歳児のお友だちです。

泣いている1歳児を見つけ近づき、頭を撫でてくれました。きっとこの子もこうやって保育ルームを修了していった一つ上のお兄さんたちにしてもらったのでしょう。また近隣の公園にお散歩に行った時には、1歳児のお友だちがよちよち歩いて行きかけたのを見て、またもやその近くにいた2歳児がそっと手を差し出し、肩に手を添えて連れてきてくれたのです。自分より小さいお友だち…そんな感覚があったのだと思います。その表情は「こっちだよ!」と言わんばかりに、その子から溢れる優しさを感じました。この時期、子どもたちにとっては、すべてが新しい『出会い』です。お友だち、おもちゃ、保育者、自然の生き物…。食事その一つ。たくさん遊んだ後は自然とお腹がすき、お母さんがいなくてもしっかり食べることができました。初めての経験でも、心が動き、安心して過ごすことで保育ルームの生活に馴染んでいきます。1.2歳児のみの異年齢保育の中で、一人ひとりの子どもたちが安心して自己表現できる…そんな場所・空間でありたいと思っています。これからの1年間どんなドラマが繰り広げられるかとても楽しみです。神さまに見守られ、愛されて育つ。そんな日々を歩んでいきたいと思っています。



新年度が始まりました ~浜脇育成センター~

新年度がはじまり、浜脇育成センターでは新しいメンバー74名を迎えて、総勢160名の子どもたちでの生活がスタートしました。小学校へ入学するよりも先に育成センターでの生活が始まり、1年生の子どもたちはもちろん保護者のみなさんもドキドキ不安と期待を持ちながらのスタートとなりました。初日には不安そうにセンターに来ていた1年生でしたが、2・3年生が荷物の置き場所を教えたり、名札をつけてあげたりと優しくリードしていました。その2・3年生の姿がとても頼もしく見えました。1年生は日数を重ねるごとに、2・3年生や指導員のサポートをうけて、自分のしたい事を見つけて遊んだり、少しずつ自分らしさを出すようになってきました。



晴れた日にはお花見をしながら、みんなでお弁当を食べました。桜の木の下で一緒に食事をとり、笑顔がはじけ、暖かい空間となっていました。入学式の次の日には、新入生歓迎会を行います。2・3年生は新しい仲間を迎えることに喜びを感じる、1年生



は受け入れてもらうことで安心感を得ることができるような会になるように、3年生と指導員と一緒に企画を考えています。

1~3年生の異なる学年が集う空間の中で、多くのことを経験し、自分を大切に、そして自分の事と同じように他者を大事にできる心を養ってほしいと願っています。

感謝・寄附

- YMCA国際協力募金に園児のみなさんと取り組んでくださっている保育園を紹介します。ご協力感謝申し上げます。
- 社会福祉法人 イエス団 神視保育園
 - 社会福祉法人 神戸婦人同情会 青谷愛児園
 - 社会福祉法人 聖ミカエル幼保連携型認定子ども園
 - 社会福祉法人 愛児会 幼保連携型認定こども園 あゆみ幼児園
 - 社会福祉法人 頌栄会 頌栄保育園
 - 社会福祉法人 光翔会オリンピア オリンピア都こども園
 - 社会福祉法人 松蔭ミカエル福祉会 認定子ども園 松蔭おかもと保育園

新会館建築募金

(前号掲載以降~3/31現在)

感謝をもってご報告します。(敬称略、順不同)

三島浩司、熊谷親啓、神戸学園都市ワイズメンズクラブ、広瀬克利、廣瀬一雄、神戸信用金庫理事長 西多弘行、松田道子、宗行孝之介、岩井義夫、齊藤靖、川島惠美、坪井宗孝、頌栄保育学院、藤村洋、安行英文、有限会社井上ビル、山野和彦、小野勅紘、江波戸幸博、片岡實、関口美佐子、篠原悦子、青柳美知子

2017年12月まで募金を受付けています。

指定管理施設 紹介

神戸市立西体育館



神戸市立西体育館は、神戸YMCAが指定管理者制度で運営する神戸市立の地区体育館としては、最も西に位置する立地にあります。西神ニュータウンが街開きした1982年から7年後の1989年、西区民の健康増進のための施設としてこの地に建てられました。

神戸市では最も人口が多い西区にあるため、現在の利用者数は、年間およそ10万人を超えています。その内訳は、トレーニング室利用がおよそ1万人、体育館主催のスポーツ教室受講者がおよそ2千人、それ以外がチームや個人でのご利用です。

体育館主催教室では、他の地区体育館同様にバドミントンや卓球、成人や子どもの体操はもちろんのこと、ハワイアンフラダンスやキッズブレイクダンス、男性のための転倒教室など特徴ある教室も開催しています。

また、定期的に「キッズスポーツチャレンジDAY」や「ニュースポーツ体験」、「親子ヨガ体験」など、地域住民サービス向けの体験プログラムも数多く開催しています。

その中で、神戸YMCAスタッフは、成人や子ども対象の体操



教室の指導やトレーニング室利用者の対応や運営全般に係る業務を担っています。

地区体育館としては比較的規模が大きいですが、利用される方々とのコミュニケーションを大切にし、顔の見える関係作りを目指して運営しています。

太山寺児童館

~小寺学童保育コーナー~

神戸市西区学園都市に位置し、社会福祉法人 神戸YMCA福祉会が運営している太山寺児童館の運営も10年を越え、子どもたちのたくさんのクラブ活動や就学前の親子のクラス等が活発に行われています。

中でも学童保育クラブは、4月1日に約40名の新1年生を迎え、120名を超える児童数で2017年度がスタートしました。また、過密解消のため小寺小学校内で「小寺学童保育コーナー」が開設され、こちらの運営も担うこととなりました。3分の1以上の児童が18時または19時までの延長保育の登録をされています。学校、学童保育と長時間集団生活を送ることで疲れやストレスを抱える子どもたちが増えることは容易に想像できます。そして様々な不安や悩みを持たれる保護者の方々もいらっしゃるかと思います。

放課後の子どもの居場所だけでなく、生活する力、人との関わりを学ぶ場を指導員と共につくっていきます。また、一人ひとりの方を大切に、そして寄り添いながら地域の子どもと家族の暮らしを支える場づくりを計画しています。乞うご期待下さい。



「ブランディング」への取り組み No.6



現在、YMCAでは様々な形態の部署があり、それぞれに合った形で「ブランディング」の浸透を図っている状況です。そのひとつとして指定管理者や運営主体として公的な施設を管理・運営する部門があります。YMCA独自の組織ではないこのような部門において、「ブランディング」をどのように浸透させて価値を見出し、いかに課題を感じました。

指定管理者制度では、行政より民間(YMCA)の能力を期待され、広く一般市民に対して高品質なサービスを求められています。このサービスを実現するために、これまで様々な社会問題に取り組み、活動を行ってきたYMCAの強みを活かしていく必要があると思います。また、それらを期待して行政より指定されているのだと思います。

そして、その強みこそが、ブランドコンセプトで示された、「したい何かがみつき、だれかにつながる場所であり、ポジティブネットのある社会」を目指すことができるYMCAではないかと考えます。それを実現することを約束することが、一般市民への高品質なサービスであり、行政とYMCAとの方向性が合致するひとつになると思います。

また、私たちも行政と連携できる強みを活かし、広く一般市民に開放された公的な施設を運営することで、社会の課題や、それに準ずる地域の課題に取り組み、行政とともに豊かな社会を目指す運動体となるために、ブランディングに価値を見出し、行政にもYMCA運動を再認識してもらおう機会になるのではと期待しています。

国際協力募金 報告

2016年度YMCA国際協力募金へのご協力をありがとうございました。

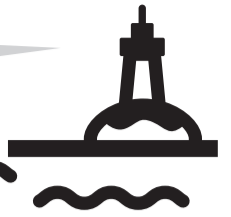
【支 出】		【収 入】	
日本YMCA同盟拠出金	340,000	一般募金	2,328,059
北タイ農村地支援	200,000	指定募金	5,496,389
定住外国人子ども奨学金	180,000	計	7,824,448
国際活動リーダーシップ養成	599,841		
神戸YMCA国際奨学金	480,000		
オリーブの木/パレスチナ・ガザ支援	68,000		
熊本地震支援	5,107,235		
東日本大震災支援	389,154		
CODE-PHD協会支援	150,000		
開発・国際理解教育	137,308		
事務局経費	172,910		
計	7,824,448		



パレスチナ オリーブ植樹

灯台 No.11

Light House



総主事 井上 真二

YMCAの「証」

1972年10月、当時の総主事である今井鎮雄さんが三宮会館に移転するにあたり、以下のように書かれています。

「 中略 ～ 5年前に建てられた計画の一環が次第に姿を現す訳である。この際、もう一度我々は何を行い、如何なる責任を果たすべき団体であるかを振り返り、新年度の足並みを揃えたいと思う。まず、YMCAは第一に、「証の団体」である。1844年、ロンドンで生まれたYMCAは決して大きな組織体ではなく、また大きな施設も持っていなかった。集まった12人の青年達はそれぞれ教派の異なる教会に属していた。それにも関わらず彼等は各々の信仰にもとづいた「証」の生活を通して、自分自らの豊かな生活を築き、彼等の持っている信仰によるたくましい価値の体系を広く友人達に伝えようとした。プログラムは華やかであつたけれど、そのこと自身が目的ではなく、行動を通しての「証」をしてゆくことが、また仲間を加えてゆくことがYMCAであったことを、私達は忘れてはならない。～ 中略 」



今春、神戸の地において第5番目の会館を与えられました。2階にはチャペルが設けられ、1980年12月のクリスマス晩餐会でかけられた「弟子の足を洗うキリスト」の聖画が戻されました。この絵はYMCAの奉仕の基本姿勢であるヨハネによる福音書13章にちなんだ人の子が来たのは、仕えられるためではなく、仕えるためであるというキリストの言葉であり、人に仕える愛と奉仕は後になって新しい意味をもつものだというイエスの愛そのものを伝えています。130年という歴史を振り返り、キリストの愛の上にそれを証してきた先人の祈りと献身を見つめつつ、未来への第一歩となる神戸YMCAの「証」を追求し、日々祈りをもって捧げたいと思います。

シリーズ「くわくらのまぐろ」



神戸YMCAでは、神戸YMCA学院専門学校日本語科で勉強している外国人学生を対象に神戸YMCA国際奨学金を支給しています。国際委員会が奨学金の選考を行い、2016年度は4名の学生が受給しました。受給した学生は、学校の成績・出席が優秀な者且つYMCA活動に積極的に活動する/したい者が選ばれます。選ばれた学生は、特に日本で生活を始める新入生のサポートをしたり、学校のオリエンテーションでは通訳をしたりと後輩や職員から信頼されています。奨学金を受給している学生の中には、交流プログラムに全て参加をしていてYMCAで出会う日本人との出会を楽しんでいます。

神戸YMCA国際奨学金は、国際協力募金が用いられています。12月の街頭募金では、国際協力募金のことを事前に勉強した上で参加します。三宮の街中で大きな声を出すことはとても勇気のいることです。しかし、街中で行き交う人たちが国際協力募金に賛同をし募金をしてくださる光景を目の当たりにすることで自分たちの奨学金のルートを知りYMCA理解を深める機会となっています。

● 奨学金受給者の声 ●

- ・ 国際奨学金をいただいたことでアルバイトの時間を減らしました。だから、勉強に力を入れることができ進学できるようになりました。留学生にとって奨学金は大切だと思います。(Aさん・ネパール)
- ・ YMCAの先生たちに認められて大変感謝しています。奨学金の面接に挑戦したり、好きな活動に参加したりとやりがいのある学校生活を送ることができました。国に帰ると周りの人に日本で得た知識や文化を教えていきたいです。(Cさん・台湾)

以下の通りに選考が行われます。

- ① 出席率、成績が優秀な者
- ② 担当講師から推薦が得られる者
- ③ 経済的援助を必要とする者
- ④ 神戸YMCAの諸活動に積極的に参加をした、またはこれから参加の意思のある者
- ⑤ 神戸YMCAの国際委員会、及びワイズメンズクラブの例会に参加できる者
- ⑥ 神戸YMCA国際奨学金受給終了後、報告書の提出ができる者

皆様から寄せられた募金が、日本語を学ぶ外国人学生の学習支援に活かされています。お支えくださっている全ての方々にご心より感謝申し上げます。



ファミリーウエルネスセンター	☎078(241)7202
YMCAホームヘルパーの事務所	☎078(241)7237
ランゲージセンター	☎078(241)7204
専門学校	☎078(241)7203
西宮YMCA	☎0798(35)5987
三田YMCA	☎079(559)0075
余島野外活動センター	☎0879(62)2241
デイキャンプ&コミュニサービス(兼キャンプ事務局)	☎078(241)7216
国際奉仕センター	☎078(241)7204
ウエルネスセンター学園都市	☎078(793)7401
西神戸YMCA	☎078(793)7402
神戸YMCA高等学院	☎078(793)7435



Information

YMCAおひさま	☎078(793)9077
西神南YMCA	☎078(993)1560
須磨YMCA	☎078(734)0183
YMCA保育園	☎078(794)3901
西宮YMCA保育園	☎0798(35)5992
西神戸YMCA保育園	☎078(792)1011
神戸学園都市YMCAこども園	☎078(791)2955
神戸YMCAちとせ幼稚園	☎078(732)3542
YMCAちとせ保育ルーム	☎078(732)3542
西神戸YMCA幼稚園	☎078(997)7705
西宮つとがわYMCA保育園	☎0798(26)1016
あかしこども広場	☎078(918)6355

神戸YMCA サマーキャンプ 2017

YMCAキャンプは、1920年六甲山麓において、日本で最初のキャンプとして実施され、今年では97年目を迎えます。年間を通じておよそ22,000人の子どもたちが全国各地でYMCAキャンプを体験しています。

大自然から、豊かに与えられる「恵み」を、そして時には自分の弱さを突きつけられるような「厳しさ」を「ちから」に変えて、仲間や支え向き合ってくれる人とともに。やがて担うべき夢見る社会を、キャンプの営みに落とし込みながら、よりよく生き、生かされ、大きな喜びを感じてYMCAキャンプの世界をぜひ体験してください。

web受付開始 5/10(水)10:00~
www.kobeymca.org/natsu
 電話受付開始 6/7(水)12:00~



ファミリーウエルネスセンター レポート

ファミリーウエルネスセンターに来られたことはございますか？ファミリーウエルネスセンターには、トレーニングジムだけでなく、グループエクササイズ用のスタジオ、25mのスイミングプールがあります。先日スタジオのイベントで盛り上がりました。

私たちと一緒に楽しみながら運動をしませんか？見学や体験も随時受け付けておりますので、お近くにお寄りの際はぜひ足をお運びくださいね！スタッフ一同お待ちしております！



イースター早天礼拝

4月16日、東遊園地にて参加者146名でイースター早天礼拝を守りました。日本基督教団神戸栄光教会の榮伝道師による「死を超えて」というメッセージでは、苦しみのレントを超えることの大切さや、その苦しみを超え、死を超えてこそ、復活に大きな意味が与えられるのだ、ということをお聞きしました。

席上献金71,762円が神戸YWCA相互援助募金・神戸YMCA国際協力募金・東日本大震災復興支援募金に捧げられ、また同日、甲東教会にて阪神地区イースター早天礼拝が行われ、席上献金を神戸YMCA国際協力募金として捧げられましたことも感謝とともにご報告いたします。



神戸YMCA高等学院 入学式



4月5日、神戸YMCA高等学院の入学式が行われました。25名の新生が、期待と不安の入り混じった気持ちで出席しました。入学式の後はホームルームがあり、登録時間割の確認や、これから始まる学校生活について説明がありました。新生の皆さん、これからともに歩んでいきましょう。